

私たちの作品展

10月25日(火)～28日(金) 10時～16時 (最終日は13時まで)

中央信用金庫 桂坂支店 1Fロビー/2Fホール

観にきてください

日ごろ、私たち山の手倶楽部の会員が「生きがいづくりの活動」としていそいそと取り組んでいます。その活動の成果として、今年度の作品展を開催いたします。

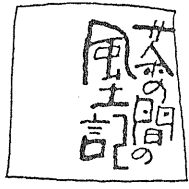
この作品展は、ふれあいの場を広げることに、いっそう理解と親睦を深めたい、制作に取り組みることによって創作と生きる喜びを感じ、あわせて老化の防止に役立て、相互援助による教養の高揚をはかりつつ、いささ

かなりとも地域社会の文化の向上に尽くすことが出来ればとの願いが開催の趣旨です。

当倶楽部三年目を記念としての第一回作品展です。作品の出来栄もつたなく、会場の設営や展示の仕方など十分な点が多いと思えますが、激励を兼ねて一度ご覧くださいますよう、桂坂の皆様にご案内いたします。

展覧内容は、
画・書・写真・工芸・文芸・手芸・生花・蒐集・リサイクル
などです。

「趣味の作品展」
実行委員会



旧山陰街道 [1]

大枝の柿も色づき始め、秋の気配の漂う頃となりました。『茶の間の風土記』は、今回から桂坂近辺の旧山陰街道沿いを散策してみることになります。

国道九号線を榎原から左へ折れ、旧山陰街道に入ります。現在は朝夕、市内や桂坂へ向かう車の列ができるこの道は、平安京の昔は京から山陰へ通じる重要な街道でした。旅人は大宮通

の丹波口から西七条、そして桂川を舟で渡り、榎原・塚原・香掛を通り、丹波・丹波へと歩いたのです。しかし山陰街道は、歴史はさらに古く、推古天皇(七世紀初め)の頃から大和と丹波を結ぶ、いわゆる丹波路で、日本最古の街道の一つであったといわれています。ただ、この平安京以前の古山陰街道がどこを通っていたかについては、いくつかの説があるようです。

いすれにせよ、この街道は宿場として栄え、旅人はこの地で一服し、都へ、あるいは山陰方面へと旅を続けたのでしよう。

大枝には、現在も香掛と

いう地名がありますが、この道には、昔をしのばせる民家は、くつ履物を掛ける場所の意で、かつてこの街道沿いには旅籠や茶店が軒を連ねていたといわれています。さて、榎原から旧街道に入り中山のバス停を少し西へ行くと「地福寺」という石標が右手に見えます。この細い道を右に折れて数分突き当たりが地福寺です。浄土宗西山派の寺で、文治三年(一一八六)、法然上人の高弟である花元上人の開基と伝えられています。本尊は、藤原時代初期の木彫り黒塗りの古仏で、松尾葉室の山中にあった峰方堂の旧仏といわれています。今でも桂坂へ至るこの旧

道には、昔をしのばせる民家が残り、くつ履物を掛ける場所の意で、かつてこの街道沿いには旅籠や茶店が軒を連ねていたといわれています。さて、榎原から旧街道に入り中山のバス停を少し西へ行くと「地福寺」という石標が右手に見えます。この細い道を右に折れて数分突き当たりが地福寺です。浄土宗西山派の寺で、文治三年(一一八六)、法然上人の高弟である花元上人の開基と伝えられています。本尊は、藤原時代初期の木彫り黒塗りの古仏で、松尾葉室の山中にあった峰方堂の旧仏といわれています。今でも桂坂へ至るこの旧

恒武天皇といえは、長岡京を思い起こしますが、桓武天皇の母、高野新笠の実家は、この大枝の地にあり、天皇自身がこの地で生まれ育ったことが、長岡京の背景にあったともいわれています。

桂坂という新しい街のすぐ近くに、こうした千年の歴史が残されていることに不思議な感慨を覚えます。柿畑の中を歩いた、秋の一時でした。

「桂坂文化フォーラム」も早いもので今回で七回目を迎え、会場もこの春竣工した「日本文研ホール」に移し開催された。

第一部は、「日本文研」の講演で、井上章一先生「あれ」と思われたらどう。ヴァイオリンのパートをチェロに変えての演奏でフレッシュに感じた。二曲目は、ペルトのフ

第四回学区民体育祭 つばき自治会

十月二日(日)、爽やかな秋風の中、桂坂小学校グラウンドにおいて第四回の桂坂学区民体育祭が行われました。当日は王夫を凝らしたプログラムのお蔭で、お年寄りから子どもまで、八つの自治会より大勢参加されました。男女ペアの風船割り競争では大笑い、五十才以上のザル引き競争にはお孫さんのかわい

優勝 二一位 つばき自治会
三一位 しらかば自治会
はなみずき自治会
皆さん、ご苦労さまでした。

学区社会福祉協議会

福祉活動基礎資料の作成に関するお願い

桂坂学区社会福祉協議会では、福祉の充実を図り、住民の皆様が、少しでも生き甲斐をもち、明るい日常生活を送って頂けるよう、様々な活動を行っています。これらの活動をより充実させるためには、学区内に居住される皆様の現況を把握する必要があります。

先日来、回覧でお知らせ致しておりますが、七〇才以上の方についての調査にご協力を頂きたいと思っております。

この調査は、任意のもので、社会福祉協議会の活動以外には使用いたしません。一〇月一日現在、(1)七〇才以上の方

「区民のついで」名月観賞の夕べに参加して

「本能寺清は幾尺なるぞ」と広い廢寺跡に朗々とひらびらと行く声量、「吾が敵は正に本能寺にあり」——目を閉じて聞き入る、「汝能く備えよ」と波味のある力強いとどめの声。

そして二曲目は、『春日山懐古』。

「憐れむ君が能州の月を賦して」——あゝこれでお月